

資料2

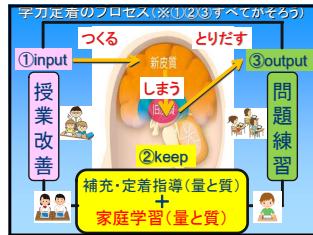
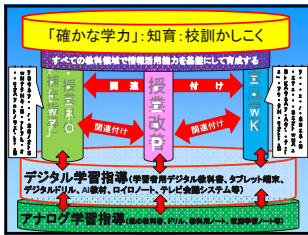
I 研究の背景と研究の方向

- 1 研究の背景
 - ① 社会及び教育の動向 → DX、未来の教室等、EdTech、教育の情報化等
 - ② 学校経営方針から
 - ③ 教師の実態及びニーズ
 - ④ 児童の実態等

- 2 研究の方向
 - ① 前年度研究の概要
 - ② 前年度研究の成果と課題

II 研究の目的及び内容等

- 1 本研究で明らかにしたいこと
 - ① 研究の目的
- 2 研究主題、副主題
- 3 研究内容
- 4 実践計画

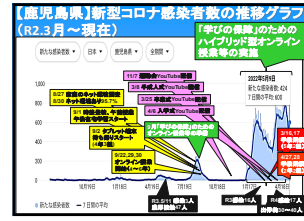


情報教育用語の理解 「未来の教室」とは
 「未来の教室 Learning Innovation」は、総務省では、EdTech(エドテック)・個別最適化・文理融合(STC)・社会課題解決をテーマに、教育の高度化と創造的な実践・解決能力育成の両立する新たな学習プログラムの開発・実践を進めている。(未来の教室)実践事業
 「未来の教室」実践事業では、人間がAI(人工知能)と共有して学習できる新たな学習環境「個別最適化・文理融合(STC)・社会課題解決」をテーマに、教育の高度化と創造的な実践・解決能力育成の両立する新たな学習プログラムの開発・実践を進めている。

DX: デジタル・トランスフォーメーションとは
 Digital Transformation: DT or DX とは、「ITの進歩が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という意味で、デジタル技術を活用して業務の効率化・生産性の向上を図ること。2004年にスウェーデンのウプサラ大学のエリック・ストルターマンが提唱したとされる。ビジネス用語としては、定額・定数が多岐で用いられる。個別「多量」がデジタル(DT)を利用して「多量」の業務を効率化・生産性を向上させること。DXは「デジタル・トランスフォーメーション」(Digital Transformation)の略称で、「変革・変化・変質」のtransの部分を「X」とすることが一般的となっている。

情報教育用語の理解 「EdTech(エドテック)」とは
 EdTech(エドテック)とは、教育・学習領域での「技術」を導入すること。EdTechとは、Education(教育)とTechnology(テクノロジー)を組み合わせた造語。基本的にはオンラインでのやりとりを指す。従って「教育」に「技術」が加わることで「教育」の質が向上し、学習の効率化・生産性の向上が期待される。① 社会や個人の学習に課題を解決する場面で活用されるアプリケーション② 学習者の学習の進捗や理解度を把握し、学習者の学習状況や学習履歴に基づいて学習内容や学習方法を個別最適化する③ 学習者の学習の進捗や理解度を把握し、学習者の学習状況や学習履歴に基づいて学習内容や学習方法を個別最適化する。

我が国の15年後2035年頃の未来社会像
「教育の情報化」
 新学習指導要領では「**情報活用能力**」を資質・能力の基盤に
 ICT(Information and Communications Technology)やIoT(Internet of Things)・ビッグデータ(BD)・人工知能(AI)等のICT技術の活用による「教育の情報化」の推進が、情報や情報教育を主体的に選択し活用していく力が求められる。



学校のデジタル化 令和3年度に行ったこと一覧
 A. 児童の学びに直接的に有効な取組
 ① 個別最適化・文理融合(STC)・社会課題解決をテーマに、教育の高度化と創造的な実践・解決能力育成の両立する新たな学習プログラムの開発・実践を進めている。
 B. 学び以外の効率化を図る取組
 ① 個別最適化・文理融合(STC)・社会課題解決をテーマに、教育の高度化と創造的な実践・解決能力育成の両立する新たな学習プログラムの開発・実践を進めている。

令和4年度
チーム星峯西小学校で取り組む EdTech・教育の情報化
「確かな学力」を育む
 これからの学習指導システムの構築
 ～アナログとデジタルの学習指導の融合～

R4年度実践計画案(実施時期、教科領域、内容等)

学年	実施時期(フレックスタイム)	実施時期(定時授業)	教科領域	内容等
1年	○	○	国語	デジタルドリル(AI教材)活用
2年	○	○	算数	デジタルドリル(AI教材)活用
3年	○	○	英語	デジタルドリル(AI教材)活用
4年	○	○	理科	デジタルドリル(AI教材)活用
5年	○	○	社会	デジタルドリル(AI教材)活用
6年	○	○	総合	デジタルドリル(AI教材)活用
予定	○	○	体育	デジタルドリル(AI教材)活用

III 研究の実践

- 1 授業における実践
- 2 補充指導における実践
- 3 家庭学習における実践

【授業】(タブレット活用)の実践イメージ
 ・ロイノート(学習ソフト)
 ・デジタルドリル(AI教材) ほか
 ① 課題解決の学習過程に沿ってアナログ(教科ノート、ワークシート等)とデジタル(ロイノート、デジタルドリル)をどう組み合わせるか
 ② 授業終了後での適用問題をデジタルドリルで補う方法の検証(どのような単元で活用するのが有効なのか?)

授業の実践例

【授業以外(補充指導)の実践イメージ
 ① 朝学習: ベーシックタイム(15分)におけるデジタルドリルの活用法
 ② 土曜授業: チャレンジタイム(45分)におけるデジタルドリルの活用法
 ※そもそも補充指導の目的は何か?
 「基礎・基本的な力を定着させ、発展的な力を育むこと」
 「全員に出す」「共通課題」と本人の意欲や学習状況に応じて進める
 「自主課題」から構成される。
 ※学びの進捗(理解度)やデジタル(デジタルドリル)学習の比重は?
 ※学年の発達段階で使い分け方が変わるか?
 ※定着率、問題習得率で使い分け方が変わるか?

補充指導の実践例

IV 研究の成果と課題

- 1 授業における成果と課題
- 2 補充指導における成果と課題
- 3 家庭学習における成果と課題

【家庭学習】の実践イメージ
 ① 基礎・基本の定着: 家庭学習ノートとデジタルドリルを組み合わせた漢字、計算指導等 ※早業時
 ② 実践教科での活用: タブレット端末活用による家庭学習課題(数、リコーダー練習、読書、工作、運動などの実践等)の与え方 ※コロナ対応時の持ち帰り
 ③ 反転授業: タブレット端末の持ち帰りによる家庭での学習からの授業(反転授業) ※コロナ対応時の持ち帰り
 ※そもそも家庭学習の目的は何か?
 「基礎・基本的な力を定着させ、発展的な力を育むとともに、学習習慣を確立させること」=全員に出す「共通課題」の習得と本人の意欲や学習状況に応じて進める「自主学習」から構成される。

家庭学習の実践例